

2024 年度 奨学生入学試験

国

語

(試験時間 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、27ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～13）に答えなさい。

正月に関連するしきたりのなかで、その成立が古く、ほぼ同じ形で受け継がれているものとしては、「七草粥^が」がある。

飯倉晴武編著『日本人のしきたり』（青春新書インテリジェンス）によれば、七草粥のはじまりは中国にあるという。中国では毎年、官吏^{アノ}の昇進を1月7日と決めていた。その日の朝、立身出世を願って、ヤクソウ^イである若菜を食べるというしきたりがあった。

それが、平安時代に日本に伝えられると、宮廷の儀式として七草粥を食べるようになる。江戸時代には、幕府が定めた儀式のある日、「a」式日の一つとなった。それが庶民にも広がり、七草粥を食べれば、その年一年、病気にならないと言われるようになる。

『日本人のしきたり』では、さらに伊勢神宮では、正月七日に若菜の粥を作って供えるしきたりが残っているとされている。

【b】、伊勢神宮のしきたりについて調べてみると、それは「新菜御饌^{わかなのみけ}」と呼ばれていたようだが、明治に入る時点で、中国のものであり、日本古来のものではないとして廃止されている（鎌田純一『中世伊勢神道の研究』続群書類従完成会）。

七草粥のしきたりについては、辞書にある通り、「以前からのならわし」ということになる。

今は、正月の期間中、スーパーなどで七草粥のセットが販売されている。そのなかには、せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろの七草がすべて揃^{そろ}っている。

【c】以前は、七草はスーパーでセットで買うものではなく、自分で摘んでくるものだった。1956年に刊行された植物学者の牧野富太郎による『牧野富太郎自叙伝』では、次のように書かれている。

〔中村春二^{（注）} 先生病重しの報を聴き、私は先生を慰めんものと、正月の一日鎌倉に赴き、春の七草を採集し、これに名を付し、籠^{かご}に盛^さって差^さ上げた所へ先生は非常にこれを喜ばれ、正しい春の七草を始めて見たと言われ、七草粥にする前に暫^{しば}く床の間に置いて楽しまれたということである〕

食べるということが重要であるなら、七草を採集しようと、スーパーで買ってこようと、^イ格別そこには差はない。それに、現在の都会では、七草を採集することなどできるわけがない。しかし、七草がただの商品になることで、^Aそこにあつた情緒が失われたことも事実である。現代の日本人は、健康にいいというだけで、サプリメントのように七草粥を食べているのかもしれない。

節分も古い。節分は、2019年は2月3日だったが、これは年によつて変わり、2月4日のこともあれば、2月2日のこともある。

節分は、中国から伝わり、平安時代から宮中で行われていた点では七草粥と似ている。節分は、立春の前日の行事であり、新しい春の訪れを前に、邪気や鬼を祓うものとされてきた。だから、「鬼は外、福は内」と言いながら豆を撒く。このしきたりは、すでに室町時代の文書に記されていた。

節分には、^{ひいらぎ}桜の小枝に^{いし}鯛の頭を刺して戸口に挿すというしきたりもある。これも平安時代からのもので、広まったのは江戸時代になつてからである。「^B鯛の頭も信心から」という言い方は、ここから生まれた。

河竹黙阿弥作の歌舞伎の演目に『三人吉三 廓初買』があるが、そのなかに、^注お嬢吉三が、「思いがけねえこの百両 月も朧に白魚の簞も霞む春の空」と名調子で言う場面がある。そのとき、遠くから「おん厄払いましょう。厄おとし」という声が聞こえてくる。江戸時代には、そのように言いながら厄落としを請け負う商売があつた。

現在でも、厄という観念は生きている。厄落としや厄祓いをしてもらう人は少なくない。とくに、厄年を気にする人は多く、そうした人たちは、前厄、本厄、後厄と続く期間に、^ロ神社ブツカクを訪れ、厄祓いをしてもらう。

だが、節分やその翌日にめぐってくる立春は祝日ではなく、昔より、重視されなくなっている。また、節分の豆まきも、厄を祓うという要素は薄れ、年齢の数だけ豆を食べるとか、有名人が神社に来て豆まきをするといった側面の方が目立つようになってきた。

^C節分は、しきたりとしては次第に衰えてきたと言える。そうしたなかで、恵方巻という新たなしきたりが生み出され、瞬間

に広がった。恵方巻には、従来の節分のしきたりにあったような、悪を退けるとか、厄を祓うといった側面は見られない。恵方巻を丸かぶり（かじり）することは、ひたすらエンギのいいこととされている。

恵方巻の丸かぶりのもととは花柳界（花柳）にあるという説がある。これについては **W** あり、今のところ決着がついてはいないが、この説を聞いて納得してしまうところがあるのは、このしきたりがあまり品のいいものを感じられないからだ。もし子どもが普段そんな食べ方をしたとしたら、親は、「**X**」と叱るだろう。

以前から続いてきたしきたりもないわけではないが、多くは時間の経過とともに廃れていく。ハロウィンや恵方巻などは、最近生まれたしきたりだが、すでに衰退の局面に入っている。

しきたりが **Y** をくり返していくのは、それだけ、私たちの生活が変化していくからである。とくに最近はその変化が著しい。生活が変われば、従来のしきたりは続けられなくなったり、意味を失ったりする。

たとえば、これまでは、日本人の信仰の中心は先祖崇拜（D）にあるとされてきた。その役割は仏教が担ってきたことになるのだが、柳田國男は戦後すぐに刊行した『先祖の話』のなかで、それを神への信仰と結びつけた。

柳田は、父親の影響もあり、「仏教嫌い」で、日本の伝統的な信仰が、仏教の影響なしに成立したことを理論的に説明しようと試みてきた。その集大成となるのが、『先祖の話』で、そこで柳田は、先祖の霊は、仏教において説かれる西方極楽（さいほう）ジヨウド（二）のような遠いところに行ってしまうのではなく、近くの山にいて、冬の期間には山の神となって子孫を見守り、春になると里に降りてきて、田の神として子孫の経済生活を支えるのだと説いた。

柳田が『先祖の話』を刊行するまで、日本の社会に、そうした考え方がはっきりと存在したかどうかは分からない。だが、柳田説にはかなりの説得力があり、それ以降は、この説に従って、日本人の先祖崇拜、日本人の宗教観が説明されるようになっていった。

しかし、この説は、山の神や田の神が登場するように、あくまで農家の生活をベースにしたものであり、都会では成り立たな

い。戦後は、都市へ出る人間が大幅に増え、都市的な生活が中心になってきた。

都市に成立した家に住むのは、主に企業などに雇われた人間であり、家は、農家とは異なり、経済的な活動の場とはなっていない。その分、家を是非とも存続させていかなければならないという意識は希薄で、事実、家は長くは続かなくなった。

となると、家のしきたりもなくなる。結婚した嫁が夫の家に入り、その家のしきたりを学んでいかなければならないなどということは、もうなくなった。以前はそれを教えた夫の両親とドウキョ(ホ)しているわけではないからである。

家のしきたりが力を持たなくなったことは大きい。というのも、それがもつとも、人々の生活を縛ってきたものだからである。それぞれの家に育った子どもたちは、家のしきたりを守るよう仕向けられることで、しきたり全般を受け入れることを学んでいた。

Z

しきたりは、今までも見てきたように、村や地域社会、あるいは組織といった特定の共同体によって守られてきたものである。ところが、そうした共同体が現代では失われてしまっているのである。

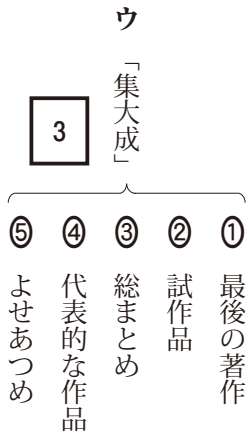
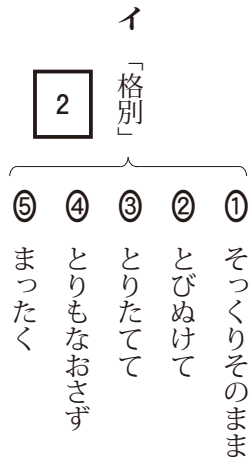
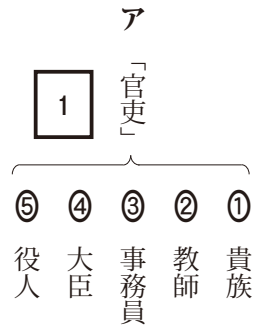
(島田裕巳の文章による。ただし、一部変更した。)

(注) 1 中村春二 … 明治末期から大正期にかけて活動した教育者(一八七七一—一九二四)。

2 お嬢吉三 … 『三人吉三廓初買』の主要な登場人物である、女装した盗賊。

3 花柳界 … 芸者や遊女たちの社会、または遊廓かのこと。

問1 破線部ア「官吏」・イ「格別」・ウ「集大成」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 1 ～ 3。



問2 空欄〔 a 〕 〔 c 〕に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

4

6

a

4

① だから

② さながら

③ すなわち

④ たとえば

⑤ もしくは

b

5

① あるいは

② むしろ

③ したがって

④ すなわち

⑤ ただ

c

6

① かえって

② だが

③ なぜなら

④ とくに

⑤ なるほど

問3 空欄

W

Y

 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑨の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

7

8

。

W

7

 Y

8

- ① 一長一短
- ② 合従連衡
- ③ 栄枯盛衰
- ④ 鎧袖一触がひ
- ⑤ 賛否両論
- ⑥ 試行錯誤
- ⑦ 森羅万象
- ⑧ 当意即妙
- ⑨ 日進月歩

問4 空欄 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 。

- ① かたじけない
- ② よんどころない
- ③ はしたない
- ④ にべもない
- ⑤ もったいない

問5 波線部(A)「そこにあつた情緒が失われた」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の

①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

10。

- ① 恩師の健康の回復を願ってわざわざ一日を費やして遠出してまで七草を集めるような細やかな心遣いと余裕が、現代に生きる私たちの中からは失われてしまったということ。
- ② 現在の都会では七草を採集できるような場所はもうなくなってしまったため、七草をスーパーで買って食べるようになったが、それでは心のゆとりが生まれにくいということ。
- ③ 採集したばかりの新鮮なものならばともかく、スーパーに並んだ七草からは本来の栄養分が失われていることに気づかないほど、現代人の想像力が欠落しているということ。
- ④ 自分たちが春の野に出て探し求めた七草で粥を作るという行為に見られた趣深さがなくなって、単に栄養がある食物を食べるだけの行事になってしまったということ。
- ⑤ 古くからあつた宮廷儀式が庶民にも広がったことで、立身出世という元々の目的が失われてしまい、単に健康のために七草粥を食べるという低俗さだけが残ったということ。

問6 波線部B「鰯の頭も信心から」について、この慣用句を正しく用いた例文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 11。

- ① 「鰯の頭も信心から」とは言うものの、自作の恋のお守りに効果なんてあるのかなあ。
- ② 道に迷っていたらこんなところで君と出会えるなんて、まさに「鰯の頭も信心から」だね。
- ③ 「鰯の頭も信心から」と言うくらいだから、どんな小さな団体であってもトップに立つのは立派なことだよ。
- ④ さすがにこれほど何度もやり直しをさせられるようでは、いくら温厚な彼でも「鰯の頭も信心から」だよ。
- ⑤ 「鰯の頭も信心から」とはよく言ったもので、どんなつまらないものでも数が集まればそれなりに価値がでてくるものだ。

問7

波線部(C)「節分は、しきたりとしては次第に衰えてきた」とあるが、なぜ筆者はこのように述べるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

12。

- ① 恵方巻という新しいしきたりが生まれたことで、それまで節分の象徴であった豆に向けられていた信仰が薄れてしまったため。
- ② 庶民の節分にはつきものであった柗の小枝と鯛の頭を使った魔除けが、現代ではほとんど伝承されなくなったため。
- ③ 節分やその翌日である立春も祝日には指定されず、都市部で生活する現代人の意識には上りにくくなったため。
- ④ 日本人の生活様式が変化し、都市に住む現代人の感覚では邪気や厄といった目に見えない観念に対する忌避感が薄れてきたため。
- ⑤ 七草粥が新春の行事として一般化するにつれて、近い時期の行事である節分に重きを置くことがなくなっていたため。

問 8 波線部D「それ」とあるが、これは何を指すか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 13。

- ① 最近生まれたしきたり
- ② 従来やしきたり
- ③ 先祖崇拝
- ④ 仏教
- ⑤ 私たちの生活の変化

問9

波線部(E)「都市に成立した家に住むのは、主に企業などに雇われた人間であり、家は、農家とは異なり、経済的な活動の場とはなっていない」とあるが、これはどういうことか。都市と農家に対する筆者のとらえ方を踏まえ、その説明として適切なものを、次の①～⑤の中から二つ選び、記号で答えなさい。解答番号は

14

15

- ① 家を存続させたいと考えた人々が農家に残って農業に従事したが、そういった意識が希薄であった人々が都市に移り住んで企業で働くようになったということ。
- ② 戦後は農村での生産活動が低迷したために人々が都市へと移住するようになり、その結果、都市部では親と子だけで生計を営む核家族化が進んだということ。
- ③ 農家は地域社会が共同して農業を行い食料を生産する場であるが、都市部の人間は主に企業で働いているため、家の中では生産的な活動を行っていないということ。
- ④ 柳田説に登場する山の神や田の神といった信仰が機能するような場が農村であり、そこから脱却し新しいしきたりを作り出すような場が都市であるということ。
- ⑤ 柳田説に見られる日本人の先祖崇拜や宗教観を形作る土台となったのは農家の生活であり、都市の生活ではそういった考え方は伝承されなくなったということ。

問10 空欄

Z

に入れるのに最も適切な文を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

16。

- ① 家のしきたりと社会全体で共有するしきたりというものは、分けて考えなければならない。
- ② しきたりを守って生きるという考え方は、もはや日本人の精神からは完全に打ち捨てられてしまったに違いない。
- ③ では、どうすればよいのだろうか。その答えを求めるには、日本人の宗教観を再び『先祖の話』の時代まで巻き戻す必要がありそうだ。
- ④ とはいえ、しきたりを受け入れる必要がなくなった結果、現代の私たちは都市で生活できるようになったのだ。
- ⑤ 私たち日本人は、今やしきたりということそのものから解放されつつあるのではないだろうか。

問11

本文の内容から導き出される見解として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

17。

① 日本のしきたりとして最も古く、かつ現在と同じような形式が安定的に伝承されているものとしては、新春を迎える際に食べる七草粥が存在する。しかし、この行事が生み出された古代の中国では、自分たちの健康を犠牲にしても働き、他人を蹴落としても立身出世しなければならないというような考え方があったと見られる。

② 日本人が大切にするしきたりには、世代が移り変わっても伝統的な立場から長期にわたって保持され伝承されるもの、人々の生活が変化するのにあわせてその姿や意味を変えていくもの、社会集団や共同体によって守られてきたものという三つの種類がある。しかし、これらはいずれも人々の生活を強く束縛してきたという点では変わりがない。

③ 春の七草を粥にして食べて一年の健康を祈ったり、旧年中にもつた邪気や厄を祓うために年の数だけ豆を食べたり、さらにはより効果を高めようと恵方巻を丸かぶりしたりするように、日本に定着するしきたりは食と健康とが深いところで結びついていると言える。ここには、農耕民としての日本人の本質を見て取ることができる。

④ 本来、節分とは新しい一年の訪れを迎えるための行事であり、季節によってもたらされる気候の変化や自然現象に大きな影響を受ける農業に従事していた人たちにとっては、重要かつ身近なものであった。しかし、企業などに雇われて都市部で働くようになった人たちにとっては、単に普段はしないことをするだけのイベントになってしまった。

⑤ 柳田國男が『先祖の話』の中で提唱した「山の神が子孫を見守り、田の神が子孫の経済生活を支える」といった信仰の在り方は、仏教が伝来する以前から存在した日本古来の考え方に基づいて発想されたものである。ここからは、伝統的な日本の農村の生活は決して変化することがないし、また変化してほしくもないという強い思いが読み取れる。

問12

柳田國男の代表作として最も適切なものを、次の①～⑥の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

18

- ① 『あめりか物語』
- ② 『城の崎にて』
- ③ 『遠野物語』
- ④ 『武蔵野』
- ⑤ 『雪国』
- ⑥ 『倫敦塔』

問13 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番

号は

19

～

23

。

(イ) ヤクソウ

19

- ① 面目をヤクジヨする
- ② ゲキヤクを取り扱う
- ③ ゴリヤクを期待する
- ④ 文学作品のショウヤク版を買う
- ⑤ ヤクビョウガミの言い伝えを聞く

(ロ) ブツカク

20

- ① 法案のカクギ決定が下る
- ② まぐろのギョカク高を調べる
- ③ 敵からのイカクを受ける
- ④ アイデア同士をヒカクする
- ⑤ シュウカクの秋を迎える

(ハ) エンギ

21

- ① 私鉄のエンセンに住まいを探す
- ② 彼女はサイエンとの誉れが高い
- ③ エンコ採用が社会問題となる
- ④ 舞台ではヨウエンな美女を演じる
- ⑤ 事件をエンコンの線で捜査する

(ニ) ジョウド

22

- ① ジョウジバクに陥る
- ② 栄養をカジョウウに摂取する
- ③ 水分が空気中にジョウウサンする
- ④ 日本酒のジョウウソウを行う
- ⑤ ジョウウルリを鑑賞する

(ホ) ドウキョ

23

- ① 静岡に活動のキョテンを置く
- ② 思い出が胸にキョライする
- ③ ケンキョに振る舞う
- ④ 近所のゴインキョに挨拶する
- ⑤ エンキョリを通勤する

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えなさい。

確かに、^(イ)この人の作品には X 風景が多い。「炎の画家」と呼ばれたゴッホの言葉という。「美しい景色を探すな。景色のなかに美しいものを見つけるんだ」。

絶景を求めてあてのない旅をするより、探しているものは案外、足もとにある。まずは自分自身の目と心を信じるのが大切なだろう。就職活動も、これに似ている。

きょう1日から企業の会社説明会が解禁される。大学3年生は重い腰を上げる季節だ。春は^アまだ先じゃないか、もつとゆつくりさせてよ、そんな嘆きが聞こえると思ったら、最近の就職戦線はそれほど甘くない。

リクルートが運営する「就職みらい研究所」によると2024年に卒業する大学生の就職内定率は2月1日時点で約2割という。すでに5人に1人が決まっているとは。前年より6ポイント高く、早期化が進む。

とはいえ、政府の建前は「3月会社説明会、6月選考開始」だから、今から情報を集めエントリーシートの記入に追われる学生もいるだろう。コロナ禍で思うような学生生活を送れず、「ガクチカ」（学生時代に力を入れたこと）を「盛る」（大げさに飾る）人もいるらしいが心配しなくていい。

企業が知りたいのは華やかな成果や実績ではなく、あなた自身。さあ自信を持って。

『神戸新聞』二〇二三年三月一日 「正平調」による

問1 空欄 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

。

- ① 奇想天外な
- ② ありふれた
- ③ 見苦しい
- ④ うるわしい
- ⑤ うらぶれた

問2 破線部ア「春はまだ先じゃないか、もつとゆつくりさせてよ」とあるが、ここに用いられている修辞法として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 25。

- ① 定型文
- ② 比喻
- ③ 叙景文
- ④ 直接話法
- ⑤ 間接話法

問3 破線部イ「建前」とあるが、その対義語として適切ではないものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解

答番号は 26。

- ① 本音
- ② 内心
- ③ 指南
- ④ 魂胆
- ⑤ 真意

問 4

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

27

- ① 激しい競争の中で学生が自らの望む業種や会社に就職するためには、学生時代の努力と実績が求められるのは当然のことである。
- ② 就職活動や採用活動をあまりに早く始める風潮は、企業と学生の双方にとって無益どころか有害であると政府は考えている。
- ③ 就職活動の本質は、エントリーシートを熱心に書くことではなく、学生生活を振り返ることによって自分自身を知ることにある。
- ④ 短期間に急速な成長を遂げることは困難であるため、学生は現在のありのままの自分を認めてくれる身の丈に合った会社を探すべきである。
- ⑤ 就職活動において学生に求められているのは、大げさに自分を飾ることではなく、ありのままの自分を素直に示すことである。

問5 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

28

 ～

32

。

(イ) この人の作品には

28

(ロ) あてのない旅をするより

29

(ハ) すでに5人に1人が

30

(ニ) 追われる学生もいるだろう

31

(ホ) 企業が知りたいのは

32

① 名詞

② 動詞

③ 形容詞

④ 連体詞

⑤ 副詞

⑥ 接続詞

⑦ 助詞

⑧ 助動詞